

# 平成26年度 人権教育講座案内

講座名	イキイキ人間学 (連続講座)	
<p>人権が尊重され、明るく住みよいまち倉敷をつくるためには、一人ひとりが生きがいを持ち、地域に住む人々の幸せを願い、人々が力をあわせ、理解と協力の輪を広げていくことが大切です。そこで、今年度も人権意識の高揚をめざして、イキイキ人間学講座を次のとおり計画いたしました。市民の皆様、人権学習推進委員会の推進委員、事務局員等ふるってご参加ください。</p>		
時刻・会場	14:00～16:00 ライフパーク倉敷 中ホール	
(1) 7月29日(火) (中ホール)	泉原病院院長 邑久光明園名誉園長 <b>牧野 正直</b> 先生	<b>「ハンセン病の歴史に学ぶ」</b> わが国は「らい予防法」という法律を定め、ハンセン病患者を孤島などに“隔離”し、絶滅する政策をとりました。ここ岡山県にも瀬戸内市の長島に2つの国立療養所があり、今でも400人近くのハンセン病回復者が生活しています。わが国のハンセン病対策の歴史を知り、そこから「病気と人権」について考えてみましょう。
(2) 8月26日(火) (中ホール)	アイヌ文化活動アドバイザー <b>居壁 太</b> 先生	<b>「アイヌ文化について」</b> アイヌの先祖が代々大切に受け継いできた心の文化、命の大切さ、自分の回りのすべてに感謝を常にすることなど。 アイヌの楽器であるトンコリやムックリの演奏も聞いてください。
(3) 9月19日(金) (中ホール)	山陽学園大学副学長 総合人間学部教授 <b>濱田 栄夫</b> 先生	<b>「世代間コミュニケーションの構造的変化」</b> <b>—若者はなぜ略語的表現を多用するのだろうか—</b> ・現代社会における食事の準備と食事の仕方の急激な変化 ・言葉で意味を伝えるスタイルの変化 ・「生命の流れ」(個別的生命を超える生命現象)の伝え方の変化 ・世代から世代へ何を伝え残すか
(4) 10月17日(金) (中ホール)	岡山一宮高校 非常勤講師 <b>筒井 愛知</b> 先生	<b>「ケータイ・スマホの人間関係」</b> <b>～機械でのつながりが生み出す身近なトラブルや危険を避けるには～</b> ケータイに始まり、スマホ・音楽プレーヤー・3DSなどのゲーム機など、個人が持ち運べる通信機器で、どこにいても誰とでもつながることができる時代になり、私たちの人間関係のカタチが変わってきています。「便利な道具」も、使いこなせなければトラブルの元。では、どのようなトラブルが、どのように起きるのでしょうか。またトラブルが起きないように上手に人間関係を結ぶには、どうしたらいいのでしょうか。
(5) 11月18日(火) (中ホール)	認定NPO法人おかやま 犯罪被害者サポート・フ ァミリーズ <b>市原千代子</b> 先生	<b>「子どもたちを被害者にも加害者にもしないために」</b> 毎日のように報道される犯罪事件。私たちは加害者に怒りは覚えても、犯罪被害者を気にかけることは少ない。被害者遺族としての体験を通して、できるだけ多くの未来ある子どもたちに命の大切さを訴えていきたい。犯罪被害者の人権について、被害にあった後起こってくる様々なことについて話したい。
☆ 対 象 ・市民 ・人権学習推進委員 ・事務局員 等 約60名 ☆ 一括申込みの締め切りは、6月20日(金)としますが、その都度申込み参加することもできます。 ☆ 問い合わせは、ライフパーク倉敷 市民学習センター (係)松本千秋・白神 実まで TEL 086-454-0011		

